

平成20年8月22日

貧酸素水塊速報 (2008年)

【発行】○ 千葉県水産総合研究センター 千葉県農林水産技術会議
 【協力】 神奈川県水産技術センター 内湾底びき網研究会連合会
 千葉県環境研究センター 東京都環境局
 第三管区海上保安本部 ○ 千葉灯標モニタリングポスト
 国立環境研究所

(今回の速報は“○”の機関の観測データを使用して作成しました)

平成20年8月18日観測結果

貧酸素水塊は引き続き内湾底層の広い範囲に分布していました。特に、内湾中央部以北は貧酸素化が強く、溶存酸素量0.5ml/L以下で無酸素に近い状態でした(図1)。縦断ラインでは、内湾最深部の底層に比較的高塩分且つ溶存酸素量が高い水塊が貫入したため、同海域では貧酸素水塊は中層に分布していました(図2)。貧酸素水塊の規模はおよそ45%に拡大し、再び例年以上の規模になりました(図3)。

なお、8月22日に船橋～千葉市地先の広い範囲で青潮が発生しました。(千葉県水質保全課、千葉海上保安部の情報引用)

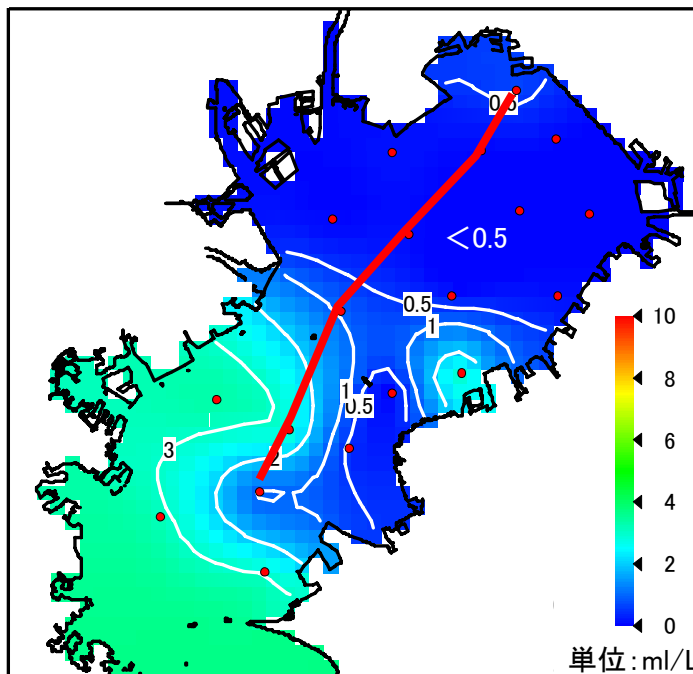


図1 底層の溶存酸素量分布(赤線は縦断ライン)

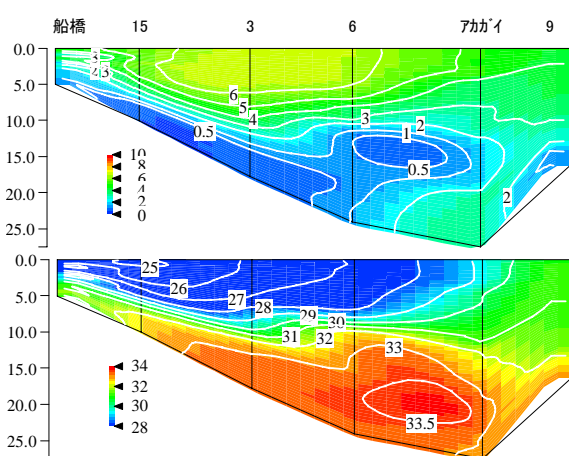


図2 縦断ラインでのDO鉛直分布(上)及び塩分鉛直分布(下)

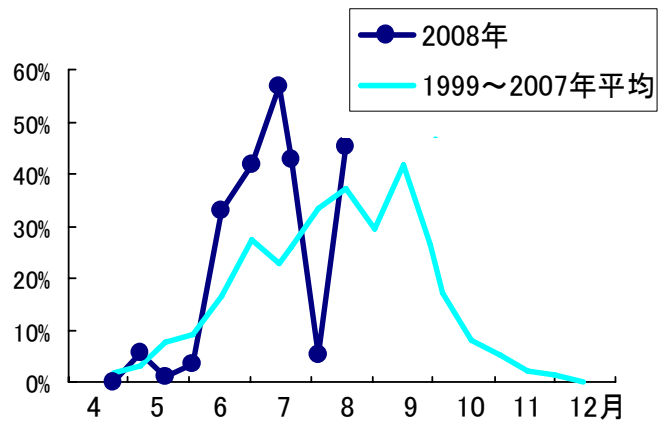


図3 貧酸素水塊の規模
(左図で貧酸素水塊(2.5ml/L以下)が占める割合)